



車を土合駅前脇に駐車してここで登山の準備をしよう。
 天神尾根は、ロープウェイを降りたらリフトに乗り替え一気に稜線まで出ると楽だ。しばらくは樹林帯の中を登る。時折木の間から辺りの山が見え、目を癒してくれる。やがて熊穴沢避難小屋に着く。これからは急登が続くがマイペースで登ろう。やがて森林限界となり、途中鎖場など岩場があるので慎重に登る。登るにつれて左側の展望が良くなり、谷川岳南面の沢や尾根が見える。登りはきついが山の風に吹かれて眺望を楽しもう。途中に「天狗の留まり場」の大きな露岩がある。ここで小休止した後は山頂まで一気に登ろう。肩の小屋はすぐそこだ。小屋より山頂トマの耳まではあと一息、多くの登山者で賑わっている。山頂からのオジカ沢の頭、小障子の頭、遠く平標山へ続く縦走路の眺めは素晴らしい。思わず縦走したいという気になる。

今回は反対方向の土樽方面の縦走に向かう。
 まず双耳峰のもう一つの峰、目の前のオキの耳へ。今までの賑わいが嘘のように静かになる。この辺は条件が揃う

とブロッケン現象がよく見られる場所だ。筆者もかつて何度も経験した。さあ一ノ倉岳に向かって下ろう。この稜線の最底鞍部、通称ノゾキといわれる場所では、眼下に急峻な一ノ倉沢から湯檜曾川まで見える。また高山植物も多く、なかなか魅力的な縦走路だ。一ノ倉岳山頂までは一汗かくところだ。山頂からは茂倉岳へのどかな稜線歩きが楽しめる。茂倉岳を過ぎるとすぐに避難小屋で水場もある。矢場の頭へは足元に注意をしながら下ろう。頭からはすぐに樹林帯となり、木の根が張り出て歩きにくい道が続く。つまずかないように下る。体力を消耗するところだ。土樽への道のりが遠く感じる。しかしめったに人に会うこともなく、静かな山歩きが楽しめる。やがて下の林道となり、もうひと頑張りです樽駅だ。上りの電車で土合まで戻ろう。普通電車で谷川岳を超えるのも一興だ。考えてみればこの清水トンネルの上を歩いてきたのだから凄いことだ。お疲れ様でした。

(株)小泉農園・小泉 俊夫)

◆コースタイム

天神峠 (1.0H) 熊穴沢避難小屋 (1.5H) 谷川岳山頂 (1.5H) 一ノ倉岳 (0.5H) 茂倉岳 (1.5H)
 矢場の頭 (2.0H) 茂倉新道登山口 (0.5H) 土樽駅

※コースタイムは目安なので個人差があります。また、電車の本数が少ないので時間の確認が必要です。

Title

自然と利便性

Memo

「この木を伐採しちゃうのですか?」「はい。虫が着いたり枝がすぐに邪魔になってしまうので…」ある小学校の先生と学校の樹木の剪定の打合せ時の会話である。

ここまで大木になるには、相当な年月を要したと誰でも想像ができるくらいの樹木であった。きっと多くの子供たちを見守り続けてきたことであろう。あまりにも寂しくなる出来事であった。

子供たちには自然そのものの大きな大木はそこに存在するってだけでどんなに有意義なものかと思うのだが、利便性ばかり追求することで、あまりにも子供たちの便利による贅沢が考えることや感じることの刺激を低下させて自然に触れざる楽しみを阻害してしまっているように感じずにはいられなかった。

町の庭師の手帳より

似たような話は庭師の仕事をしている者であれば、誰でも経験しているはずである。

例えば、ここ最近では駐車場スペースの確保の為に簡単に素敵なお庭をつぶしてしまう人がいる。どんな高級車でもせいぜいもって10数年…。

古いお庭は歴史を刻み先代からの思いもつまっている。素晴らしい文化を後世に繋ぐことも出来る。その方からすればちょっと不便かもしれないが、歴史を感じるその風情は子供たちの感性を育てるような気がする。

人の喜びや優先順位はそれぞれだが、利便性ばかりを追求し自然に触れずに生きていくのはもったいないことである。私たち人間も自然の一部なのだと思うからである。

しかしながら人間は便利を追求するのが他の動物との違う点であるというのも間違いのないところである…。

う〜ん。今宵も庭師は物思いに更けるのであります。(株)山田植物園・山田 進

社会貢献事業

シニアワークプログラム

《東毛支部》

平成25年9月9日～9月19日の中での8日間、55才以上で就職意欲のある方を対象に太田市の造園会館U-Rin館にて、30名の受講生に、造園に関する基礎的な知識と技術を習得させる事を目的に前半が学科、後半が実技を行いました。

東毛地区では、今回初めてのシニアワークプログラム造園講習会でしたが支部会員の講師、助手の皆さんが一つになり力を合わせ無事終了する事が出来ました。

造園講習会に参加された受講生は、60才を過ぎた方が多く見受けられましたが、開校式から閉講式に至るまで学科、実技共真剣に取り組んでいました。

最終日の合同面接会は東毛支部を中心とした協会メンバーが10社程参加しました。受講生の皆さんは、面接会で積極的に話をして就職が出来るよう頑張っていました。

(株)カネサ園・澤口 浩美

《西毛支部》

本年度も社会貢献事業として、群馬県長寿社会づくり財団よりの委託を受けて、シニアワークプログラム事業の協力を実施いたしました。

昨今、高齢者の雇用、就職環境は厳しくなっております。長い職業人生で培ってきた職業意識、経験を生かし、意欲と能力のある限り、年齢に関わりなく社会の担い手として働き、活躍できる様に55歳以上の高齢求職者を対象に雇用を前提とした、造園技能講習をおこない、講習終了後に、造園各社との面接会により再就職を目的としています。

群馬県造園建設業協会が、財団より委託され協会メンバーが講師となり実施いたしました。造園講習の内容は、造園の歴史、植物材料、各道具取り扱い及び、安全作業方法、そして高木剪定、低木剪定、芝刈、草刈機等を使用しての現地講習及び、竹垣、四つ目垣製作等、ガーデニング講習では花鉢を植え付けなどと、近年の造園技術も講習いたしました。

私共の造園会社に再就職して頂いた時には、造園業とはどのような仕事かを事前に良く理解していただき、特に安全作業には力を入れた講習を実施しております。今年度も多くの受講者が造園業に再就職出来ました。(株)櫻造園・櫻井 幹男